

## トビウオ通信 (R8 第5号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況について》

国立研究開発法人 水産研究・教育機構（水産資源研究所）が令和8年5月22日に「2026年3月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況」について公表しました。なお、本調査結果と漁況は、当センターを含む水産関係機関で検討し、同機構水産資源研究所が取りまとめたものです。

今回は、その概要と島根県沖のこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

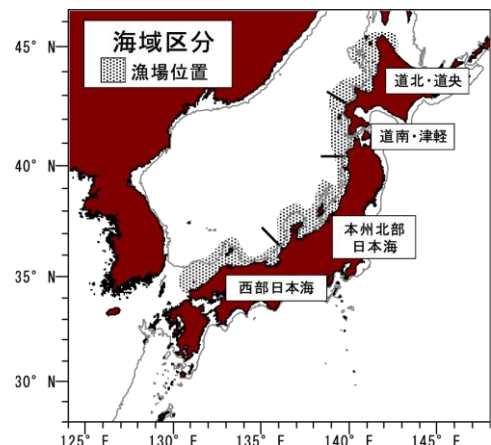
※ 今回紹介する内容は今後の漁況について予報するものではなく、調査結果と漁況の説明のみになります。

#### ポイント

(1) 令和7年10月に実施したスルメイカ稚仔調査では、スルメイカ幼生が1尾も採集されず、平均分布密度は令和6年および過去5年（令和2年～6年）平均を下回った。

(2) 令和8年1月～3月のスルメイカの漁獲量は、日本海沿岸全域および西部日本海で前年を下回った。

(3) 令和8年1月～3月の島根県におけるスルメイカの漁獲はなく、4月の漁獲量は前年を上回ったが、過去5年（令和3年～7年）平均を下回った。



## (1) 令和7年秋のスルメイカ幼生の分布状況

水産資源研究所及び日本海側府県の水産関係機関は、山陰～東シナ海にかけて毎年10月～11月にスルメイカ稚仔調査※1を実施しています。本調査では、この時期に生まれたスルメイカ（秋季発生系群）幼生の分布量から、これらが成長して翌年の5月～10月に日本海で漁獲されるスルメイカの豊度を予測するための情報を収集しています。

令和7年10月の調査では、海況不良の影響により、前年（令和6年）の76定点より少ない44定点で調査を実施し、スルメイカ幼生は1尾も採集されませんでした。調査海域におけるスルメイカ幼生の平均分布密度は0尾/m<sup>2</sup>であり、令和6年（0.07尾/m<sup>2</sup>）および過去5年（令和2年～6年）平均（1.33尾/m<sup>2</sup>）を下回り、過去最低でした（図1）。

※1 スルメイカ稚仔調査：口径45cmのプランクトンネット（網目合0.33mm）を用いて、各調査点で深度150mから海面までの鉛直曳によって主に外套背長1mm～3mmのスルメイカ幼生を採集する調査

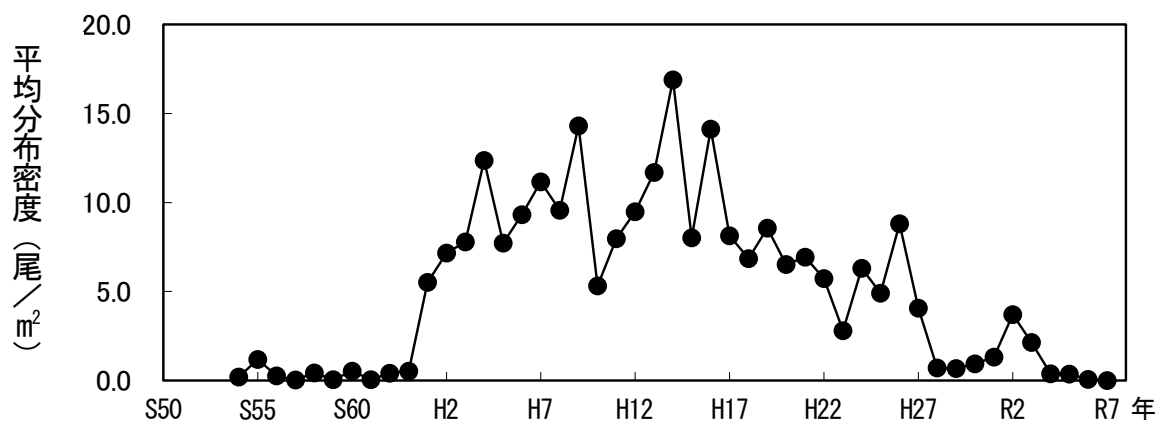


図1 10月～11月のスルメイカ稚仔調査結果で採集されたスルメイカ幼生の平均分布密度の経年変化

## (2) 日本海沿岸域におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、スルメイカは小型いか釣り漁業（5トン以上30トン未満）を主体として周年漁獲され、主漁期は5月～12月です。

令和7年の主漁期前半（5月～7月）の日本海沿岸全域における漁獲量は、前年比144%、過去5年（令和2年～6年）平均の39%であり、前年を上回りましたが、過去5年平均を下回りました（図2：左）。また、島根県を含む西部日本海における漁獲量は、前年比248%であり、前年を上回りました（図2：右）。

令和7年の主漁期後半（8月～12月）の日本海沿岸全域における漁獲量は、前年比63%、

過去5年（令和2年～6年）平均の40%であり、前年および過去5年平均を下回りました。

最新の漁況として、日本海沿岸全域における令和8年1月～3月の漁獲量は、前年の49%、過去5年（令和3年～7年）平均の24%であり、前年および過去5年平均を下回りました。

なお、主漁期後半及び令和8年1月～3月の漁獲量の減少には、令和7年10月31日に発出された小型いか釣り漁業の採捕停止命令の影響があると推察されます。

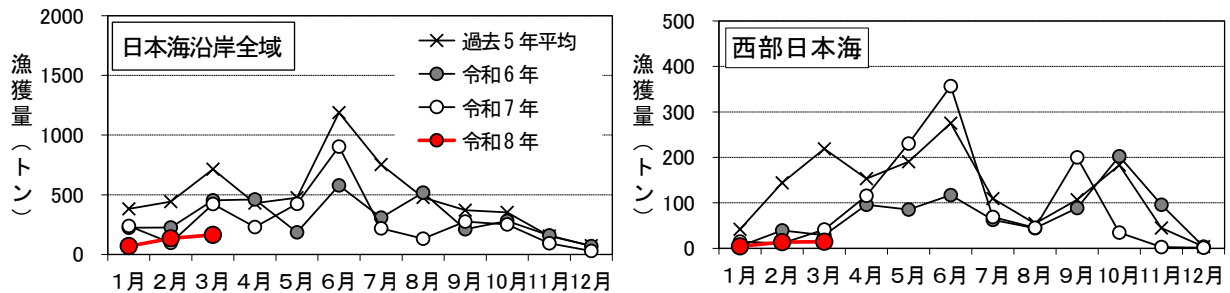


図2 日本海沿岸全域および西部日本海の漁獲量（過去5年（令和3年～7年）平均、令和6年、令和7年および令和8年（一部速報値））

### (3) 島根県におけるスルメイカの漁況

主要3港（浜田、西郷、恵曇）<sup>※2</sup>における小型いか釣り漁業によるスルメイカの月別の漁獲動向を図3に示しました。令和7年11月から令和8年3月は、小型いか釣り漁業の採捕停止命令により、漁獲はありませんでした。また、令和8年4月の漁獲量は3.4トンで、前年4月（2.1トン）を上回りましたが、過去5年（令和3年～7年）4月の平均（6.7トン）を下回りました（前年比159%、過去5年平均比51%）。

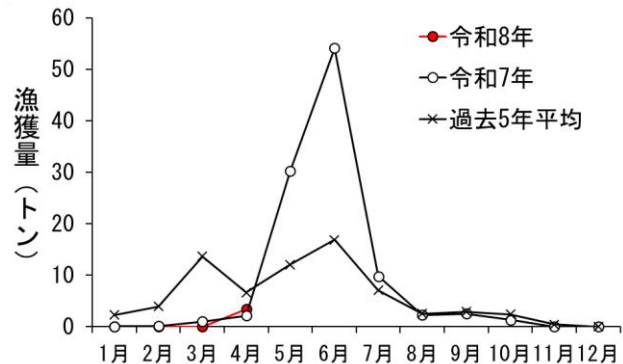


図3 主要3港におけるスルメイカの月別漁獲動向

今回の小型いか釣り漁業の採捕停止命令の発出は、スルメイカ漁で漁獲可能量の制度が導入された平成10年以降で初めてとなりました。令和8年4月から操業が解禁されたため、今後の漁獲動向をより一層注視していく必要があります。

※2 浜田は属地データ、西郷および恵曇は属人データを集計